

学術認証フェデレーションに関する取り組み

ネットワーク情報基盤研究部門 三橋一郎

はじめに

国立情報学研究所（NII）は平成 20 年から学術認証フェデレーション（学認）というプロジェクトを実施しており、本学もこのプロジェクトに参加しています。

学認とは

学術認証フェデレーション（学認）とは、学術サービスを利用する研究機関と、サービスを提供する機関から構成された連合体で、フェデレーションが定めたポリシーを信頼しあうことで加盟機関は相互にユーザ認証の連携ができるようになります。例えば、三重大学が契約している電子ジャーナルにアクセスするには、出版社が発行する専用のアカウントで学外からアクセス出来るものもありますが、基本的には三重大学内のネットワークからアクセスする必要があります。しかし、学認に加盟すれば、同じく学認に加盟している出版社の電子ジャーナルを閲覧する場合、総合情報処理センターが発行している「統一アカウント」を用いて学外からアクセスできるようになります。

学認の現状

学認に参加すると様々なサービスと連携できます。現在提供されているサービスとしては、もともとは電子ジャーナルの比率が一番高かったですが、Microsoft 社が学生を対象に開発系ソフトウェアを無償で提供する DreamSpark や、大容量ファイル転送サービスなどもあり、無線 LAN の認証を学認対応にしている大学もあります。サービスの数は現状で 40 を超えており、加盟機関数は 40 です（平成 24 年 3 月現在）。

本学のこれまでの取り組み

本学は平成 21 年に学認の「テストフェデレーション」に加盟し、テスト用データベースを用いた試験接続を行ってきました。その結果を踏まえ、平成 22 年には実運用されているデータベースと連携して前述の様々なサービスが受けられる「運用フェデレーション」への昇格を行いました。平成 23 年には学内で本格運用を開始し、電子ジャーナルや DreamSpark などのサービスを提供しています。

利用実態

以下に、平成 23 年度の主なサービスの延べ利用者数をまとめます。

サービス提供者	サービス名	延べ利用者数
Microsoft	DreamSpark	95
Elsevier	Science Direct	384
Springer	SpringerLink	295
Thomson Reuters	Web of Science	452
EBSCO	EBSCO host	189
国立情報学研究所	CiNii	694

この表を見ると、電子ジャーナルを学外から閲覧するという需要が結構あるということがわかります。

学認の今後の展開

現在学認では、OpenID と連携して学生が民間のサービスを学割で利用できるようにするというプロジェクトが進んでいます。また、競争的研究資金の申請などに使われる e-Rad を学認対応にするという話もあります。これらの計画が進めば学認の利用者も増え、もっと有効活用されるようになるのではと思っています。